



2017年



**マレーシア・ペナン州 区民ホームステイ派遣
〈報告書〉**



杉田浩章

櫻井彩乃

上原妙子

上原香菜

仲浦さくら

1. マレーシア・ペナン州について

東南アジアの中心に位置するマレーシアは、マレー半島（半島マレーシア）とボルネオ島の一部（東マレーシア）から成り立っています。国土の約 60%が熱帯雨林でおおわれています。マレー系・中華系・インド系そして先住民族で構成される多民族国家です。

ペナン州は、マレーシアの北西に位置する、面積約 1031 平方 km、人口 164 万人が住む州です。州都は世界遺産にもなっているジョージタウンです。ペナン州は、「東洋の真珠」、「グルメ天国」と呼ばれ多くの観光客で賑わうペナン島と、商工業・居住区・大自然が調和する半島部からなっています。

葛飾区とマレーシア・ペナン州の交流は、1987 年に始まりました。経済的・文化的にも関係の深い東南アジアとの交流を目的に始まり、現在は隔年で青年ホームステイの派遣と受入を行っています。派遣の年には、5 名の葛飾区民がペナン州のホストファミリー宅で約 1 週間のホームステイを体験、受入の年にはペナンの青年 10 名が葛飾区内のホストファミリー宅に 1 週間ほど滞在をします。

お互いの社会・文化・生活習慣には大きな違いもありますが、心遣いや考え方などにはびっくりするほど似ている点もあります。ホームステイ交流を通して、お互いに学びあい、理解しあい、そしてそれを帰国後に地域のために活かす・・・そんな素晴らしい交流を続けています。

葛飾区文化施設指定管理者

2. 募集要項

事業名	マレーシア・ペナン州 区民ホームステイ派遣		
派遣期間	平成 29 年 8 月 3 日（木）～ 9 日（水） 7 日間		
募集人数	5 名		
対象	昭和 32 年 4 月 2 日～平成 11 年 4 月 1 日生まれの方		
応募資格	① 申し込み時から派遣時を通して葛飾区に住所を有している方。 ② 国際交流に関心があり、派遣の目的を理解し、派遣後も区内で実施する国際交流事業に協力できる方。 ③ 健康で、海外生活やホームステイに対応ができ、区の研修、交流事業に参加できる方。 ④ 学校長、勤務先の理解が得られる方。かつ未成年は保護者の同意が得られる方。 ⑤ 事前・事後研修、報告会の全日程に参加できる方。 ⑥ 英語で基本的なコミュニケーションがとれ、交流に意欲がある方。 ⑦ 過去に本事業で派遣されたことがない方。		
言語	英語	個人負担金	60,000 円

3. 選考スケジュール

4月17日(月)	応募受付開始
5月16日(火)	応募締切 <必着>
5月下旬	書類選考結果を全員に郵送にて通知。 書類選考通過者には面接選考時間もあわせて通知します。
6月4日(日)	面接選考
6月上旬	団員の内定。審査結果は全員に郵送にて通知。 ※派遣団員内定者のうち、事前研修の全日程を修了した方を団員として決定。

4. 研修概要

	日にち	研 修 内 容
第1回	6月25日(日)	渡航手続きの説明、自己紹介、体験談
第2回	7月9日(日)	マレーシアの歴史・文化、マレー語講座
第3回	7月23日(日)	ホームステイ情報、現地での文化交流について
第4回	8月28日(月)	区長に派遣報告(葛飾区役所)等、[午前のみ]
報告会	11月5日(日)	かつしか国際交流まつりにて発表

5. 派遣日程

日にち	午前	午後
8月3日(木)	成田発(経由:クアラルンプール)	ペナン到着後、ホストファミリー宅へ
8月4日(金)	ペナン島文化/観光施設視察(ジョージタウン、植物園、モスク等)	
8月5日(土)	ホームステイ	
8月6日(日)	ホームステイ	
8月7日(月)	ホームステイ	フェアウェルパーティー
8月8日(火)	ホームステイ	
8月9日(水)	ペナン発(経由:クアラルンプール)	成田着

6. ホストファミリー

	団員	ホストファミリー
1	杉田 浩章	Mr. Ng Liang Chye (中華系ファミリー)
2	櫻井 彩乃	Mr.Mohammad Fauzi bin Sharif (マレー系ファミリー)
3	上原 妙子	Mr.Baharudin Bin Mahamud (マレー系ファミリー)
4	上原 香菜	Mr. Lim Kit Hong (中華系ファミリー)
5	仲浦 さくら	Mr.Azizan Bin Md Zain (マレー系ファミリー)

7. 公式行事 ～表敬訪問・ペナン島視察～

【8月4日（金）】

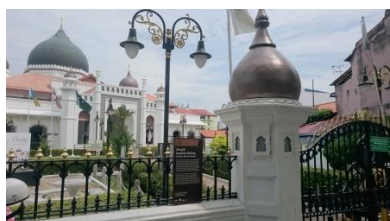
葛飾区とペナンの友好交流プログラムの現地受入団体である“MAYCペナン”の事務局長であるサイフルさんのお宅に集合し、ペナン島視察に向かいました。サイフルさん宅では、朝の食事がふるまわれました。団員にとって人生初のドリアン！！果物の王様と言われるドリアンですが、なかなか独特の味で忘れられない味でした。



MAYCメンバーの方々とともに、ジョージタウンにあるペナン観光省を訪問しました。プロモーション課のDannyさんからペナン観光の現状をプレゼンテーションいただき、葛飾区からの記念品である手ぬぐいを贈呈しました。



つづいて、ペナン島の文化・観光施設の視察に出発。2008年に世界遺産に登録された“ジョージタウン”は、古き東洋と西洋の多文化がそのまま残る街並みとして有名です。ジョージタウンではいくつものストリートアートが街のところどころで発見でき、楽しむことができました。すべてのアートを見ることはできませんでしたが、「見て楽しむ」「アート的一部分となって楽しむ」というのがジョージタウンのストリートアートの特徴です。



ジョージタウンでは、お寺やセントポール教会なども回り、日本とは違い多民族国家であることが感じられました。

この日のランチは、カレーでした。他民族国家であるマレーシアでは、マレー系、中華系の次に多くを占めるのがインド系の方々です。カレーをおいしくいただきました。



次に訪問した植物園では暑い中ではありましたが、たくさん歩いていろいろな木や花を見ました。サルがたくさんいて、駆け回る姿に圧倒されました。手に持っていたペットボトルの水をサルにとられそうになる場面もありました。



マレーシアの国教はイスラム教です。数多くあるモスク（イスラム寺院）の中でも有名な“フローティングモスク”も訪問しました。モスクには観光客も入ることができますが、入口には注意書きがあり、女性は肌を見せないようにしなくてはなりません。団員も“ヒジャブ”と呼ばれるスカーフをまわって髪と肌を隠して中に入りました。

天井が高く広いモスク。特にお祈りをしている様子は見られませんでした。イスラムの文化を感じることができました。



天井の高い
モスクです。

ランチを食べたばかりにも関わらず、すぐにお茶の時間。日本ではお茶を飲むときは、コーヒーショップなどに行きコーヒーや紅茶を飲んだりときには甘いものを食べたりしますが、マレーシアのお茶の時間は全然違って団員全員びっくりしました。“ラクサ”、“ロジャ”などなど、これは食事？と思うようなお茶の時間でした。

最後にはペナンの海辺に立ち寄りました。海の中には入らずに、ビーチで楽しく過ごしました。

建築物、アート、自然、食などをみんなで楽しむことができた内容の濃い1日となりました。おもてなし上手なペナンの方々と短い時間の中でいろいろ体験できたことがよい思い出となりました。



ラクサ



ロジャ

8. 派遣団員自己紹介と体験談

杉田 浩章（すぎた ひろあき）

【自己紹介】

私は葛飾区金町で生まれ育ち、都内の広告会社に勤務しております。

観光を日本の基幹産業にしようと、海外からの訪日需要を盛り上げるために、行政はもとより民間企業でも様々な活動が行われております。私が勤務している会社でもインバウンド事業に取り組んでおり、今回は、ペナンでのホームステイ体験はもちろん、葛飾区におけるインバウンドの状況や、海外での葛飾区への訪問ニーズ等が知りたくマレーシア・ペナン州のホームステイ事業に応募させていただきました。

葛飾区のスタッフの皆様を始め MAYC ペナンの方々、そして何よりお世話になったホストファミリーの皆様はこの場を借りて感謝申し上げます。

【活動報告】

派遣された団員は女性 4 名と男性 1 名。最年長ということもあり団長の役割をお引き受けしました。事前の 3 回の研修に始まり 1 週間のマレーシア・ペナン州でのホームステイ。帰国後は葛飾区長への表敬訪問式とこの報告書の作成。最後は 11 月に行われる『かつしか国際交流まつり』で区民の皆様への報告会というプログラムです。

ペナン滞在中の日程と内容などは、今回ホームステイ先が同じ中華系だった上原香菜さんと毎日行動を共にしていたので、彼女の報告に便乗させていただき、私からは今回の事業を通じて学んだ事と最後にその感想をもって報告とさせていただきます。

■マレーシアの基礎情報



左上のカントン部の図柄は、イスラム教の象徴の月と星を、
赤と白の線はマレーシアの 13 の州と首都のクアラルンプールを表している

項目	マレーシア	日本
人口（2016）	約 3,166 万人	約 1 億 2,680 万人
国民一人当たりの GDP（2016）	約 9,360US ドル	約 38,900US ドル
外国人訪問者数（2016）	約 2,700 万人	約 2,400 万人
海外出国者数	約 4,521 万人（2011）	約 1,711 万人（2016）
日⇄馬 訪問者数（2016）	553,106 人	394,200 人

■マレーシア経済

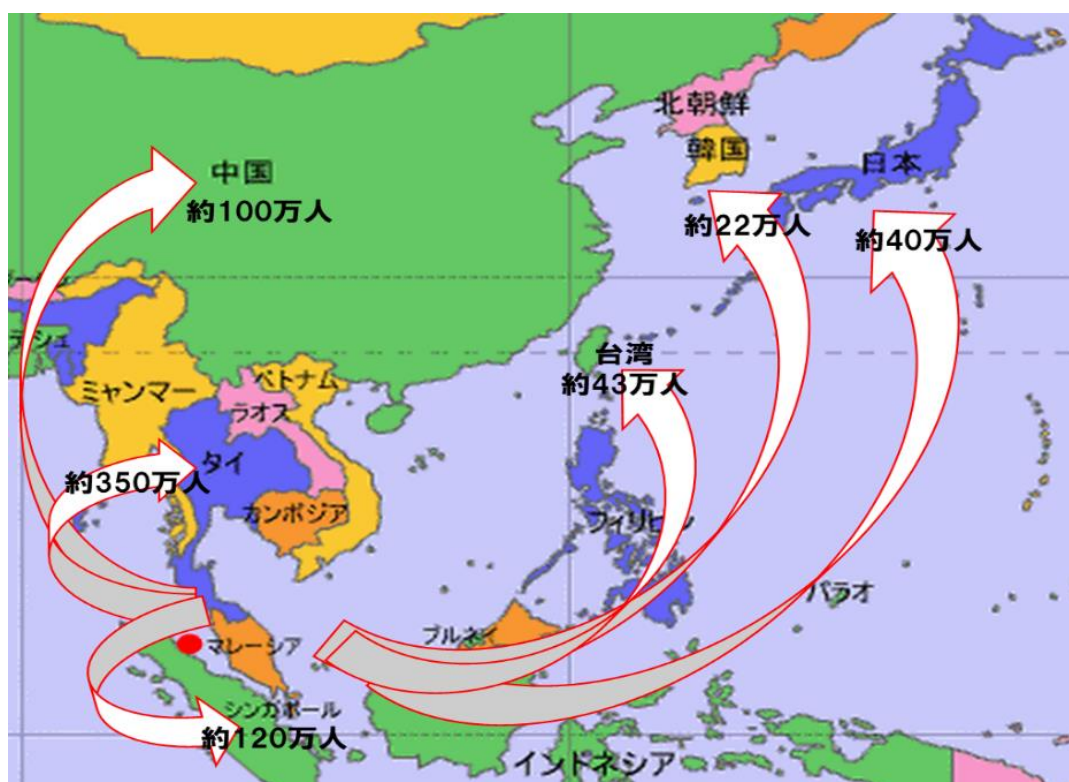
マレーシアは輸出が輸入を上回る貿易黒字国。

日本はシンガポール・中国に次いで第3位の貿易相手国。

2020年までに先進国入りを目指す「ビジョン2020」方針を掲げ、日本の経済成長を見習い、経済・社会福祉・教育・民主社会化を強力に推進。現ナジブ政権下では様々な民族が一つのマレーシアになることが社会そして経済を発展させていくというスローガン「ワンMalaysia」を掲げている。

マレーシア経済に占めるペナン州の割合は8.3%（全国5位）である。ペナン州の経済は、製造業とサービス業の2本柱で成り立っており、比率は製造業が49%、サービス業が46%。製造業は、電機製品や半導体の生産などが盛んである。サービス業の中心は観光で、ペナンには国内外から毎年500～600万人の観光客が訪れている。

■マレーシア人のアジア各国への訪問者数



<マレーシア発外国ツアーの平均的な価格>

日本（1週間）25万円、中国（6日間）12万円、台湾（8日間）13万円、韓国（6日間）14万円

☛ 順調な経済成長を背景にマレーシア人の海外旅行は旺盛である。

■諸外国からのマレーシア訪問者数（2016年）

1位：シンガポール	13,272,961人
2位：インドネシア	3,116,144人
3位：中国	2,124,942人
4位：タイ	1,780,800人
5位：インド	638,578人
6位：日本	553,106人
7位：韓国	444,439人
8位：フィリピン	417,446人
9位：豪州	377,727人
10位：台湾	300,861人



■諸外国からの訪日外客数（2016年）

1位：中国	6,373,000人
2位：韓国	5,090,300人
3位：台湾	4,167,400人
4位：香港	1,839,200人
5位：米国	1,242,700人
6位：タイ	901,400人
7位：豪州	445,200人
8位：マレーシア	394,200人
9位：シンガポール	361,800人
10位：フィリピン	347,800人



【公式行事 ペナン州観光省訪問】

到着翌日にペナン州観光省を訪問し、Danny Tan マネージャーよりペナンのインバウンド観光の現状をプレゼンテーションしていただきました。



マレーシアを訪れる外国人観光客のうち、首都クアラルンプールを訪れる人の割合は 53%、ペナンを訪れる人の割合は 39%とのこと。

ペナン州のジョージタウンは、2008 年 7 月にマラッカ海峡の歴史都市群としてユネスコ世界遺産に登録されました。マラッカ海峡の歴史的植民地都市の類例なき事例であり、古き西洋と東洋を結ぶ交易拠点として受け継がれてきた多文化遺産をほとんど完全に備えている歴史都市として多くの観光客を魅了しています。

また近年、ペナン州はマレーシアにおける医療観光の先進地となっており、医療観光市場の 75%をペナン州が占めている様です。観光に医療のような付加価値の高いサービスを付け加えることで新たな市場を創造しています。



【ホストファミリー】

私がホームステイさせていただいたのは Juru 村の中華系一家 Ng Liang Chye さん宅です。MAYC ペナンは、大きくマレー系と中華系のグループとがあるようで、中華系の方々の多くは Juru 村に住まわれている様です。

Ng Liang Chye さん（通称オキさん）宅はとても大きな家で、奥様と長男、娘 2 人の 5 人家族と犬が 2 匹です。オキさんと奥様と長男はこの交流事業で葛飾に来たことがあり、日本のことを良くご存知でした。



オキさん一家。右から奥様・長女・オキさん・次女



Juru 村の皆さん。2 列目左から 2 人目は Jerome 会長



週末にはキャメロンハイランドへ1泊2日の小旅行



オキさん宅での送別会ではお好み焼きを振舞いました

【公式行事：フェアウェルパーティー】

我々団員が感謝の気持ちでおもてなしをするのがフェアウェルパーティーです。

事前の研修時に、各自の役割と何をするかを決め、準備をして臨みました。

服装は全員が日本から浴衣を持参。仲浦さくらさんによる書道の披露と、櫻井彩乃さんが点てたお茶をふるまい、皆さんにとっても喜んでいただきました。

最後は恒例の「葛飾音頭」。地元の盆踊りで練習をした甲斐もあって間違えずに踊ることができました（笑）

最後はホストファミリーを始めお世話になった皆さんと記念撮影。あっという間の一週間でした。



【後記】

当初は、私自身も他の団員の方々も同じだと思いますが、どこか海外旅行気分での派遣事業を捉えておりました。書類選考から面接、その後の事前研修が進むにつれて段々と実態が明らかになり、実際に現地でホームステイを体験したことで、改めてこの交流事業の歴史と意義と責任の重さを実感した次第であります。

我が国は人口減少社会に差し掛かり、今後ますます外国人との交流や依存が重要になることは間違いありません。葛飾区としても「多文化共生社会の推進」をより推し進めていくために、区民参加による本事業の意義は極めて大きく、また、参加した区民の今後の役割も大切であると考えております。

葛飾区の外国人登録者数は約2万人と全国の自治体で12位の状況にも関わらず、1年間に外国人と交流を持った区民の経験は1割程度という現状を考えると、異なる様々な文化を受け入れて共存・成長してきた社会の先駆けであるマレーシアは、明るくおおらかな国民性も含めて模範となる点が多々あるように思います。

これからもこの交流事業の継続と共に、ペナンの方々との親交を広め、葛飾区の更なる繁栄に期待いたします。

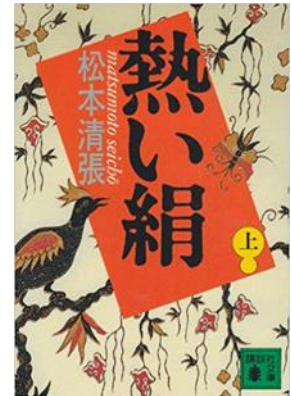
最後に、次回以降訪問される方へのアドバイスです。

今回の派遣団員5名のうち4名がキャメロンハイランドへ小旅行に連れて行っていただきました。私もキャメロンハイランドがどのような所か聞いたこともなく全く知りませんでした。

地理的には、ペナンとクアラルンプールの間で、マレー半島の中央付近の山岳地帯に位置しており、標高は1500mを越え年間を通じて気温が20℃程度の高原リゾートです。

マレーシアの人にとっては憧れの場所らしく、日本でいうと軽井沢のような所です。

ここでこれ以上多くは説明をいたしません、訪問する前に松本清張の推理小説「熱い絹」の一読をお勧めします。小説の中に登場する固有名詞や様々な情景が、実際に訪問した際に一層の興味関心を引き立たせ、マレーシア旅行をより楽しいものにしてくれることでしょう。



櫻井 彩乃 (さくらい あやの)

【自己紹介】

生まれも、育ちも葛飾区。現在は、葛飾区鎌倉在住の大学4年生です。大学では、国際交流学科で法学を専攻しています。高校生の時から、ジェンダー問題に関心があり、学内外問わず活動をしています。ご縁で葛飾区男女平等推進委員も務めています。

今回このプログラムに参加した理由は、今までアメリカ、韓国、台湾やフィリピン、マレーシアと同じ ASEAN 経済共同体の一員であるラオスなどを訪れました。その中でも、今年の3月に JICA のプログラムで訪れたラオスでの経験が忘れられなかったからです。近年、ラオスの経済発展は目覚ましく、過去10年間で GDP は平均7%以上の成長を維持しています。ASEAN 経済共同体により、ラオスがさらなる経済発展を謳歌する可能性は十分にあるとされています。日本などの先進国に比べると物の豊かさは不十分かもしれませんが、心の温かさを感じることができました。その中で、「発展することが本当に幸せなのか」「物の豊かさを求めるようになると、良さを失う可能性があるのではないか」という疑問を抱きました。同じ ASEAN 経済共同体であり、経済発展が著しいマレーシアの状況を知りたくなりました。また、ムスリム女性の生活にとっても興味があり、応募しました。

ペナンを訪れる前の研修で、各々関心があるテーマを調べ、発表をしました。私は、マレーシアにおける女性について調べました。この報告書では、ムスリム女性について綴っていきます。

【ホストファミリー】

私のホストファミリーは、マレー系の6人家族。家族構成は、お父さん、お母さん、私と同年の女の子、高校生の男女、7歳の女の子でした。



写真(右)ホストファミリーとの対面の際に撮った写真 (中央)日本からのお土産を渡した際の写真 (左)キャメロンハイランドで。高校生の女の子は受験勉強のため不在。

【ホームステイ先のお家】

家は、空港から 40 分ほど離れたところにありました。中心部とは打って変わって、とても自然豊かな村で、毎朝鳥や虫の声で目が覚めました。

滞在中はお部屋を一部屋貸していただきました。クーラーなどはないため日が出ると暑く感じますが、徐々に慣れていきました。



(左)お部屋の窓からの景色



(右)お家周辺の景色



水浴び

溜まっているお水で水浴びをします。東南アジアあるあるですが、お家ではお水しか出ませんでした。暑いので調度良いです。しかし、夜遅い時間や早朝の水浴びは寒かったので注意が必要です。

また、水には虫が浮いていることは当たり前なので、強く生きていく力を養うこともできます。

着替えなどを置くスペースがなかったなので、日本から持参した、ビニールバッグと S 字フックがとても役に立ちました。



トイレ

汲み取り式のトイレです。マレーシア人の多くは、紙を使わないため自宅のトイレに、トイレットペーパーはありませんでした。壁に設置されたホースから水が出るので、手で器用に洗い、清潔にします。手動ウォシュレットのようです。慣れていないと難しいので、トイレットペーパーとゴミ袋を持参していくととても安心します。ウェットシートやデリケートウェットシートもあると便利です。

【マレーシアにおけるジェンダー】

私は、日本の少女たちをエンパワメントすることを目的とした **Torch for girls** という団体の代表を務めていることもあり、マレーシアの少女のキャリア形成や人生設計について調べたいと思っていました。しかし、データが少なかったため、ムスリム女性たちはどのように生活をしているのかにテーマを変えました。なぜなら、「ムスリム女性は様々なことを制限されていて女性蔑視だ」「女性の地位が低い」などとよく言われていますが、マレーシアではどうなのかと疑問に思ったからです。1週間ではマレーシアにおける女性の地位について理解することができませんでしたが、ホームステイをしなければ見ることのできない女性たちのプライベートを覗くことができました。“ヒジャブ”を例に説明をします。

次の写真で女性団員たちの頭を覆っている布をヒジャブといいます。ヒジャブとは、覆う・遮蔽する・保護するという意味の動詞「حجب」が語源です。一般に欧米では女性の頭と体を覆う布を意味しますが、アラビア語においては頭に被るベールといった意味の他に、貞淑・道徳といった意味も持っています。ムスリム女性たちは、このヒジャブを着用することが、イスラーム教の聖書「クルアーン(コーラン)」で規定されています。その根拠となる法源には以下の通りです。

クルアーンの第 24 章 30 節「また、女子の信者にはこう言え。目を伏せて隠し所を守り、露出している部分のほかは、わが身の飾りとなるところをあらわしてはならない」24 章 31 節「それから女の信仰者にも言うておやり、慎み深く目を下げて、陰部は大事に守っておき、外部に出ている部分はしかたがないが、そのほかの美しいところは人に見せぬよう。胸には蔽いをかぶせるよう」他に 33 章でも女子の服装に言及している。

ハディース（預言者ムハンマドの言行録）「成人に達した女性は、ここを除きどの部分も見られてはならない、と言って預言者は顔と手を示された」など、服装への言及がある。

原則義務ですが、義務といっても強要は誰にも出来ません。被るか被らないか、顔まで隠すのかはその人とアッラーとの個人の問題であり、最終的には女性に委ねられている部分もあります。



タンジュン・ブंगाにある、水上のモスクで。

ヒジャブをつけたまま生活をしているのか疑問に思っていたましたが、女性たちがヒジャブを取る瞬間を目の当たりにしました。お家に帰ってきたらヒジャブを取り、私たちと同じような姿になるのです。外出する際は、服に合わせてヒジャブを選び、それに合うピンを付ける。女性たちは、女性だからヒジャブを身にまとうように強制されているのではなく、「自分を守るため」に身につけているのではないかと思います。女性たちにとって、ヒジャブや長い衣を着るというのは、男性から性的な視線を避けるだけでなく、周囲に慎みがありきちんとした女性である、ということを示す意味もあるのです。

クルアーンの第 24 章 31 節にあるように、イスラームでは女性はしばしば金や真珠に例えられ、守るべき美しいもの、とされています。この為、女性は美しいもの、金や真珠のように大切なものなので、その大切な女性を強い紫外線や砂嵐、不埒な男たちから視線や性的な暴力から守る為に女性はその魅力である髪をヒジャブで隠し、身体のラインが露にならないようにするのです。

世界的に見て、ムスリム女性の権利が脅かされている問題はたくさんあり、そこから目を背けてはいけない現状があります。しかし、1週間だけでしたが滞在したマレーシア・ペナンでは目に見えて女性の権利を脅かされている様子は感じ取れませんでした。自分でビジネスをしている女性たちも多く、力強く生きている姿は、私たち日本人女性や日本も学ぶべきものがあると思いました。マレーシアのムスリム女性の生き方や取り巻く環境についてとても興味を持ったので、また、マレーシアを訪れ、マレーシアのジェンダーやイスラムとジェンダーについて深めたいと思います。

【最後に】

1週間異なる文化の方と生活することは、容易ではありません。私は、マレーシア人のたくさん食べる食生活に適応できませんでした。しかし、全てその国や人と同じにする必要はないと感じました。みんな1人1人違うからこそ、その違いを楽しみ、悩み、尊重していくことができると改めて思いました。

【謝辞】

今回このような機会を与えてくださった葛飾区の皆様、このプログラムに関わって下さった、職員の皆様、現地で温かく迎えてくださったホストファミリー、現地住民の方々、そして仲間の皆様に心から感謝申し上げます。

皆様のご健勝とご活躍を、心よりお祈り申し上げます。



上原 妙子（うえはらたえこ）

【自己紹介】

葛飾区に住んで10年以上が経ちます。海外に行くことが好きで学生時代よりいろいろな国を訪れてきました。マレーシアには、大学生のときに訪れました。タイから入国し、電車やバスを乗り継いでマレーシアを経由し、シンガポールより出国した当時の旅でした。その際にペナン州にも足を踏み入れていました。ただ、滞在時間の都合上ペナン島へは行けませんでした。現地の方から、「海がきれいだからペナン島にもいくといいよ。」と言われていたが行けなかったため、いつかペナンへ行きたいと思っていました。今回初めてマレーシア・ペナン州区民ホームステイ派遣のプログラムがあることを知り、そのときの思いが湧いてきて、ぜひペナンへ！という気持ちを持ち、応募しました。

【選考と事前研修】

書類選考と面接を経て団員として内定をいただきました。3回の事前研修では、マレーシアの基本的な情報を教えていただいたり、葛飾区のことを学んだりしました。マレー語講座もあり、マレー語のあいさつや単語などを習いました。5人の団員一人一人がマレーシアについてのテーマを決め、それについて調べプレゼンする研修もありました。マレーシアについてはインターネットで調べたり、本で調べたりしましたが、なかなか思い通りにはいかず、やはり「百聞は一見に如かず」だと思いました。いろいろな研修をしていくうちに、やはり自分の目で確かめ、たくさんのことを経験したいとより強く思うようになりました。

【ホームステイ報告】

○ホストファミリー紹介

私のホストファミリーは、マレー系のBaharudinさん一家です。ホストファザーとホストマザー、そして4人の娘さんたちが、温かく迎えてくれました。1日目の迎えも最終日の送りもいつも家族全員、仲良しの家族でした。長女のAlinaさん、4女のHusnaさんはMAYCのメンバーで、2日目の公式行事、ジョージタウン観光も一緒でした。Alinaさんは、仕事など大忙しですが、彼女の車の運転でいろいろなところに連れて行ってくれました。Husnaさんは、英語が得意でとても若く、友達もたくさん。何人かの友達にも会わせてくれました。現代っ子らしく、つねにスマホを片手にコミュニケーションをとっていました。次女のLianaさんは、自宅近くのオフィスで働いています。バイクでオフィスに連れて行ってくれました。





3女のNurinaさんは、自宅でマレー系の女性が着用する服“バジュクロン”を仕立てる仕事をしています。自宅の外にNurina's fashionという大きな看板も掲げています。ホストファザー以外は全員女性なので、移動中の車の中はいつもにぎやかです。息子さんも4人いらっしゃいますが、一緒には住んでいません。ステイ中に、近くに住んでいる息子さん家族にはお会いすることができました。

○ホームステイ体験

《8月5日（土）》

私たち日本人もショッピングセンターは大好きですが、マレーシアにもショッピングセンターがあり、多くのお客さんでにぎわっていました。郊外のショッピングセンターで、食品、衣料品、雑貨類等いろいろなものが売られていました。この日はマレーシア国内にあるリゾートのTerengganuのイベントをやっていました。Terengganuの食べ物を販売していたり、楽器体験コーナー、マレーシア伝統のゲーム“チョンカ”体験コーナー、バティック（ろうけつ染め）絵付け体験コーナーがあったり、いろいろと楽しめるところがありました。私は、マレーシア伝統のバティック絵付け体験をやりましたが、色の発色がよく鮮やかな絵に仕上がりました。食べ物の販売コーナーでは試食もでき、現地の方は試食が大好きなようで、Try!と何度も勧められました。日本でいういわゆるB級グルメが多く販売されていましたが、スパイシーな味など日本人にも合うものが多かったです。



セレモニーにも行きました。どんなセレモニー？と尋ねると、Husnaさん曰く、「People die…」とのこと。セレモニーには、Nurinaさんが仕立てたバジュクロンを着て、ヒジャブを頭にまとい、現地の方と同じ装いで行くことになりました。会場に着くと、ビュッフェスタイルで食事をしました。「People die…」というと、日本では黒色のイメージですが、マレーシアでは、皆色とりどりの衣装を着ていました。そのため、本当にこれって「People die…」なのだろうか？とあってしまいました。





夜にはクダ州で行われていたフェスティバルに行きました。屋外で音楽を演奏したり、たくさんの屋台が出ていたり、日本でのお祭りと共通点がありました。動物にもふれあえる場所があり、牛やバッファローなど大きな動物がいました。子供たちは広場で光る竹とんぼのようなものを飛ばして遊ぶなど楽しんでいました。少しやらせてもらおうと、なぜか飛ばない…。何回かやってみてやっと飛びました。

《8月6日（日）》

ビジネスに行ってきた！と言われてHusnaさんと知り合いの方と向かったのは、郊外にある屋内の会場です。ここでHusnaさんと一緒に行ったことは、ホストマザーが作ったクッキーやおつまみなどの食品、パウダーやソース、乾燥させたリーフを販売することです。おつまみは、夜自宅でホストマザーが油で揚げていたスパイシーでおいしいおつまみです。Husnaさんとともに食品のショップの店員となったわけですが、ここでの販売は呼び込みなどもなく静かにお店番をするような形でした。女性がメインのイベントで、出店しているお店は、食品、化粧品、衣料品、ヘナアートなどでした。体験コーナーもあり、ZUMBAや洋服のリメイク、刺しゅう、メイク体験などもできました。ショップ店員をやりながら、ほかの店を回ったり、体験コーナーでいろいろな体験をしたりなど参加型のイベントで、参加者のみんなが楽しんでいました。インストラクターの先生と一緒にZUMBAを踊って汗をかいったり、手にヘナアートをしたりなど楽しみました。マレーシアの女性は、とてもアクティブです。ZUMBAのインストラクターの先生からは、めったに日本人がこのような場所には来ないからかインタビューまでされました。日本に行ったことがあるという方からも話しかけられましたが、マレー語がわからなくても簡単な英語で話をしました。



夕方に Alina さん、Liana さん、Husna さんと一緒に行ったのは、近くの遊歩道がある公園です。マングローブ林のようになっているところで、整備されていて散歩に来ている人がちらほらいました。ここには、サルがたくさんいました。遊歩道にサルがいてなかなか進めません。4人でおびえながらも遊歩道を歩きました。ここでは、ウェディングの写真撮影をしている人もいました。マレーシアでは、このようなところでも記念写真を撮るんだと、ちょっとしたことで日本との違いを感じました。



《8月7日（月）》

朝起きてから向かったのは、近くの山のトレッキングコースです。平日ですが、老若男女問わずたくさんの人が集まっています。ウォーキングをする人、ランニングをする人、様々ですが、健康維持のため、楽しみのために体を動かしに来ているようです。Husnaさんによると、朝6時ころからウォーキングやランニングを始める人がいるとのことでした。友人や家族と一緒に来ている人が多く、中華系の方が多かったです。山の途中で引き返してきましたが、いい運動になりました。



ホストファミリーとともに車で向かったのは、brother の家。息子さんに会えるのかな、どんな方かなと思いながら向かうと、そこには For rent の張り紙です。息子さんの家ではありますが、息子さんは海外に住んでいてペナン州のその家には何年も住んでいないとのことでした。空き家になっている家を定期的に訪れ、状態を確認しています。張り紙にホストファザーの電話番号が書かれていますが、なかなか借り手が見つからないようです。このような日常の一部分を体験できるのもホームステイならではのと思いました。

《8月8日（火）》

朝はホストマザーとともに近所の広場でexerciseをしました。ここには、近隣に住むホストマザー世代の方々がたくさん集まっていました。気功のようなexerciseで、ゆっくり集中して体のいろいろな部分を動かしていきます。マレー系の女性ばかりが集まっていて、皆白い洋服を身にまとっています。ホストマザーは定期的にこのexerciseを行っているとのことですが、日本でいうラジオ体操のようなものかと思いました。exercise終了後は、広場で食事をしている方もいました。



現地の学校を訪問。まず初めに、幼稚園を併設している小学校に行きました。娘さんたちが通っていた小学校で、マレー系の小学校です。小さいころから、女の子は頭にヒジャブをまとっています。いろいろな教室の授業の様子を見せていただきました。幼稚園児のクラスでは、絵に色を塗ったり、言葉を書いたりしています。先生がドラえもんの歌を知っていて、一緒に歌を歌ったり、ドラえもんの絵を描いたりしてあげると、とてもうれしそうにしていました。日本でも小さな子に人気のあるドラえもんは、マレーシアでも人気で幼稚園児以外でもたくさんの人が知っていました。小学生のクラスでは、低学年の少人数のクラスを見せていただきました。読み書きが難しい子どもが少人数集まり、先生2名体制で丁寧に教えていました。読み書きが難しくても学習ができるように教材などを工夫されていて、いろいろな教材を見せてもらいました。高学年の教室には、娘さんの当時の担任の先生がいらっしゃいました。高学年の子供たちは恥ずかしがる様子でしたが、それは万国共通ですね。先生が知っている日本語ある？と子供たちに尋ねるとなぜか、「サワディーカ！」（タイ語）の声。日本はペナンの小学生にとってはそこまで身近にはなっていないようです。



次に訪問したのは、マレー系の中学校高等学校です。ここでは、**Lunch** をとってから、高校生の社会の授業を見せていただきました。この年になると、様々なものに興味関心をもっていて、日本からやってきた私にいろいろな質問がとびました。日本の紹介の本を見せると写真を見ながらこれは何？それは何？とマレーシアではなじみのないものに興味津々でした。このクラスの生徒さんたちは、クラスでプロジェクトをやっているとのことで、そのプロジェクトを見せたい！と目を輝かせながら外へ連れて行ってくれました。100羽以上のひなを成長させるというプロジェクトで、外の小さなスペースでひなが元気に動いていました。クラスのみんなで団結してプロジェクトを行っているというところが、この高校の素晴らしいところだと思いました。高校生ともなると知っている日本語がある子もいて、日本語で話しかけてくれたのもうれしかったです。高校生は学校が終わったら、英語を学びに行く子も多いようです。英語が得意な子とは英語で話しましたが、やはり英語はどこの国でも学ぶ言語であり、世界で活躍するには英語は絶対必須だと痛感しました。



《8月9日（水）》

前日はほぼ睡眠せず、スーツケースにパッキングをしました。家族みんなでパッキングを手伝ってくれました。普段の旅行では荷物の少ない私ですが、今回ばかりはいただいたお土産などでスーツケースに全て入らず…。朝4時には1週間お世話になったステイ先のお宅を後にし、空港へ向かいました。朝の早い時間にも関わらず、ホストファミリー全員で空港までお見送りをしてくれたことに非常にありがたい気持ちでいっぱいでした。家族の一員として迎えてくれたことを感じました。Nurinaさんが仕立てたレースのジャケットをいただき、この日はそれを着用して帰国しました。

○ペナンでの食事

ペナンの人は家でご飯を食べないと聞いていましたが、家庭によりけりでした。私のステイ先では、家で食事をすることも多かったです。ただ、家族全員で食卓を囲むというスタイルではありませんでした。とにかく食べる！食べる！食べる！食べる！食べることが大好きなペナンの人々でした。1時間前に食事したはずなのに、**Are you hungry?**と尋ねられました。1日に5～6食位食べていました。「マレーシア人は食べるために生きている」という言葉になるほどと思いました。

以下に現地で食べたものを紹介します。



ある日の朝食 パナナと小麦粉を混ぜてあげたもの



ある日の朝食 ナシレマツ



ある日の朝食 ナシゴレン



○日本文化紹介

マレーシアの伝統的なバジュクロンをNurinaさんからいただきましたが、そのお返しに日本文化を紹介しました。フェアウェルパーティーでも書道パフォーマンスがありましたが、家では習字で家族全員の名前を書いてあげました。ひらがなで書きましたが、文字の構成、読み方、書き方などマレー語とは違いが多く、Nurinaさんは興味深々、疑問いっぱいのような様子でした。日本語にはひらがな、カタカナ、漢字があることに驚いていました。中華系の方がマレーシアの中でもペナンには特に多くいるので、漢字については意味はわからないまでも馴染みはあるようです。



【最後に】

英語圏ではない国でのホームステイ、社会人になってからのホームステイということで、不安な部分もあり楽しい部分もありという気持ちでペナンに向かいました。ペナンでは、個人で行く海外旅行とは違った体験ができたことが私にとって非常に有意義な時間になりました。まさか自分がマレーシアでショップのお店番なんて出発前には考えてもいなかったことですし、ホームステイであるからこそできたことだと思います。いろいろと不自由なく暮らしている東京での生活とは、ホームステイ先の暮らしは異なる部分も多かったです。明るくフレンドリーなペナンの人々に、さまざまなところでパワーをもらった1週間でした。この機会を与えてくださった葛飾区と、ホストファミリーをはじめお世話になった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

上原 香菜（うえはら かな）

【自己紹介】

私の性格を一言で紹介しようとする、「好奇心旺盛」。この一言に尽きます。

大学時代、韓国でのショートホームステイを経験したときに、生まれて初めて、私の知らない言語、景色、宗教、文化に触れ、世界はとても大きく無限に広がっている、ということを知りました。大学卒業後は、韓国、ニュージーランド、オーストラリアで、働きながら語学勉強をしつつ、様々な国や地域を旅しました。楽しいこと、つらいこと、ビックリすること、悲しいこと…その全てが私を成長させてくれました。ここ数年は日本でおとなしく？過ごしていましたが、このマレーシア派遣プログラムは、久しぶりに私の好奇心に火をつけてくれました。以前から、宗教と食文化の関わりについては興味があったので、多文化・多宗教・多人種が融合するマレーシアのご家庭に入り、生きた「多文化共生社会」に入り込み、学ぶということは、私にとって、心ときめくようなチャンスでした。メンバーに選んで頂いて、本当に感謝しています。

【ホームステイ報告】

私がペナンに滞在していた期間、その日あったことや、気づいたこと、教えていただいたことなどを、日を追って紹介しながら、私の目線から見たマレーシアをお伝えします。

1 日目

ペナンの空港に着いたのは、午後9時過ぎ。予定よりだいぶ遅くなってしまいましたが、これからどんな1週間が待っているのかとドキドキしながらメンバー5人で空港のゲートを出ました。そこには私の予想を超える、たくさんの方々が出迎えに来てくれていました。マレー系の方、中華系の方、インド系の方、小さな赤ちゃんを抱えたお母さんまで！平日の遅い時間によくこんなに集まってくれたな、というくらい大勢の方が笑顔で迎えてくれて、「いよいよ始まったんだ」という、安心と緊張が同時に胸に広がりました。

歓迎会の会場へ向かう車内でも、フレンドリーにたくさん話しかけてくださり、とても嬉しかったです。会場ではさらに多くの方が私たちを待っていてくださり、その大歓迎っぷりに驚きました。



〈成田空港。いよいよ出発です〉



〈ペナン空港でのお出迎え〉



〈どこもない初対面ショット〉

会場に到着するや否や、ベテランメンバーであるマレー系の女性陣と自己紹介や食事をしました。皆さん、日本の文化や歌にも詳しく、気さくに話してくださいましたが、マレー系の方はイスラム教を信仰しています。髪を隠すためのスカーフやヒジャブを身にまとった年配の女性たちに囲まれるのは人生で初めてのことなので、正直、どう接すればいいのか、とまどいや、緊張もありました。

食事の後、ホームステイファミリーが紹介されるのですが、私は中華系のホンさんのお宅にお世話になることになりました。どんな方なのか不安でしたが、笑顔が素敵な明るい方で、安心しました。

歓迎会が終わったのは夜 11 時過ぎだったのですが、「海辺の屋台街でおいしいところがあるから、行こう」という話になり、ホンさんの車に乗って移動しました。到着した先には、杉田さんファミリーや、その他大勢の中華系メンバーが次々と合流してきて、歓迎会の 2 次会(?)が始まりました。やはり、アジアの人はパワフル&夜行性だな、と思いました。先ほどの歓迎会でもたくさんのマレー料理を頂いて、正直満腹だったのですが、ここでもたくさんの料理を勧めていただき、食べて、食べて、食べまくり、1 日目の深夜にしてすでに、満腹の向こう側を見ました。先に言うておきますが、ここから帰国までの 7 日間、私は一度も「おなかすいたな」と感じることはありませんでした。振り返ってみると、ずーっと何かを食べ、ずーっとおなかいっぱいでした。



〈牡蠣の炒め物〉



〈エイの焼き物〉



〈ナシゴレン〉



〈海辺の屋台にて〉

2 日目

朝は 7 時に出発。どこへ行くのかと思ったら、朝食の屋台です。到着すると、杉田さんファミリーや、昨日は見かけなかった他の家の方も集まっており、みんなで朝ごはんです。中華系のコミュニティーというのはとても密接で、同じ村に住んでいる人々はみんな家族のように仲良しです。

朝食後は受入団体である MAYC の中心人物で、マレー系のサイフルさんのお宅に集まり、みんなでペナン観光省へ訪問することになっていました。

サイフルさんのお宅は、私が滞在させていただいているお宅とは明らかに違い、イスラム色が濃く、同じ国の同じ地域でも、人種が違くと、全く異なった生活を送っているんだな、と感じました。サイフルさんのお宅ではお手伝いさんが朝からごはんを作りに来てくれるようで、食卓には色とりどりの朝食が用意されていました。朝食をついさっき食べてきたので、おなかはいっぱいですが、ここでも食事を勧められ、2度目の朝食です。周囲に勧められ、ドリアンもトライしました。においの破壊力がすごすぎて、日本人チームは皆、一口でギブアップしてしまいましたが、現地の皆さんは大好きなようで、笑顔でほおばっていました。



〈屋台で食べたヌードル〉



〈サイフル家の朝食〉



〈ライチのような果実〉



〈笑顔でドリアン〉

観光省でお話を伺ったあとは、若い女性陣が一日中連れ添って、ペナン島を観光案内してくれました。お昼には皆でカレー屋さんに入り、スプーンやフォークを使わず、右手だけで食事をする方法を教えてもらいました。これがなかなか難しい！とくに、ナンを右手だけでちぎるのには、一番苦労しました。

夕方、団員と別れた後は、前日同様、中華系の皆さんと合流し、外でご飯を食べました。ペナンの名物だという炒果条（チャークイテャオ）は、ピリ辛の麺に目玉焼きがのせてあって、箸が止まらない美味しさでした。

さて、ここから帰宅する車の中で、衝撃の事実を知ります。「明日は5時半に出発するよ。1泊旅行だから家帰ったら、準備してね」と言われました。ちなみに、この時点で夜の11時です！家に帰ったら、なんと、新品の小さなキャリーバッグが用意されていました。なんというお心遣い！大急ぎで準備し、大急ぎで就寝しました。

3日目&4日目

3時間ほどの睡眠で、まだ真っ暗な5時半に家を出発。途中で3人（高校生の男の子と、私と同年の女性、皆から“チェンママ”の愛称で慕われているみんなのお母さんの存在）を車に乗せ、高速道路を走ります。みんな朝からハイテンションで、車内は福建語の嵐。福建語はひとつもわからないけれど、こちらまでつられて笑ってしまうほど、笑いに溢れた活気ある車内でした。お互いボケたりツッコんだりしながら大笑いし、年齢の差や性別は全く気にせず、対等な立場で会話をしていました。日本や韓国のように、敬語があり、年齢や性別、立場などによる上下関係を重んじる文化との違いを強く感じました。

車でぐんぐん山の方へ進みながら、道中にあるお寺や、お茶畑、イチゴ農園、はちみつファームや野菜市場など、いろいろな場所に寄り道してくれました。まるで修学旅行のようです。



夕方になってようやく、目的地である **Camelon Highland**(キャメロンハイランド)という避暑地に到着しました。

写真を見るとわかるように、常夏のマレーシアのはずが、みんな長袖です。とても涼しく、朝晩は寒いくらいでした。宿泊先は、オキさん（杉田さんのホストファザー）が予約してくれたコンドミニウムです。とても広くてキレイでした。みんなで夕食のお鍋の準備をしたり、お菓子やフルーツを食べながらテレビを見たり、ソファで談笑したりして、マレーシアに来て初めて現地の暮らしや、「家庭感」を満喫する時間でした。



少し暗くなってきてからは、みんなでナイトマーケットに行きました。見たこともない食べ物や、フルーツもたくさんありました。私が飲んだシーココナツのジュースは、普通のココナツとは全く違う味で、黒糖のような味がしました。コップに、ビニールの持ち手がついていて、持ち運びがすごく便利でした。日本の屋台でもぜひ導入してほしいです！



＜シーココナツのジュース＞



次の日の朝は、ゆっくりで良いといわれましたが、早朝、モスクから流れる「お祈りの時刻を知らせる音楽」で目が覚めました。それは、日本で夕方に流れる「5時のお知らせ」と同じくらいのボリュームで、町中に聞こえます。どのような音楽かというのは言葉では表現しにくいのですが、「アンニュイ且つ重厚な音楽」でした。

午前中はまったりして、午後に出発。今日も市場や、ラベンダー畑、サボテンファームなどいろいろなところに寄りました。一番ビックリしたのは、オキさんが、道沿いにあった農家のおじさんに声をかけて、仲良くなり、そのおじさんが育てている野菜を収穫させていただいたことです。私も体験させていただきました。まさかマレーシアで大根を引っっこ抜くことになるとは…！



＜ラベンダー畑にて＞



＜大根を収穫！＞



＜全員で記念撮影＞

帰路、山の中を走行中、ところどころに、小さな小屋があり、屋根の下には数名の人がゴロゴロしています。アスリーと呼ばれる民族で、彼らはジャングルに住んでいるということです。肌の色はとても黒く、家族全員で、のんびりしているように見えます。何かを売ろうとしているのか、野菜っぱいものが吊るしてありますが、商売っ気はほとんどありません。一体どこで収入を得て、どのような暮らしをしているのか、とても気になりました。



＜アスリーの暮らし＞

さて、私たち一行が目的地の Ipoh（イポー）に到着した頃には、辺りは真っ暗でしたが、夕食時でとても人が多く、活気がありました。チキンライスが有名な土地ということで、私たちもチキンライスを頂きました。例によってボリューム満点でしたが、すごく美味しかったです。大満足の完食後に、なんと鶏の丸蒸し登場！女性も男性もぐいぐい素手で解体していく姿はけっこう衝撃的でした。



〈豪快にチキンを解体〉

5 日目

今日は朝5時半起きでオキさんの農場とミヨンさん（オキさんの奥様）の湯葉工場を見学させてもらいに行きました。正直、疲れも出てきて、眠い目をこすりながら向かいましたが、私が訪れたときには、もう彼らは元気に仕事をしていました。我が家のホンもそうですが、毎日運転や案内をしてくれている彼らの方が、何倍も疲れているはずなのに…本当に頭が下がります。湯葉工場では、出来たての湯葉を指でつまんで干す作業を体験させて頂きました。とても熱くて、くっつきやすい湯葉を、素早く広げて干していく作業は、本当に難しかったです。



〈湯葉干し体験〉



〈きれいに干された湯葉〉



〈オキさんが飼うアヒル〉



〈オキさんのオクラ畑〉

午後はオキさんと、ホンと、杉田さんと私で、「幻のハニー」を探す旅に出ました。ここでもオキさんのフレンドリーさと積極性で、ガンガン知らない人に声をかけ、その幻のハニー（はちみつ）を売っているというお宅を探し回りました。道中、ろうそく工場があれば、働いている人に声をかけて中を見学させてもらい、展望台があれば、険しい道でも頂上まで登って、きれいな景色を見せてくれました。ピクルス工場に寄った時は、たくさん試食をさせてもらい、屋台があれば、ココナツやかき氷をご馳走してくれて、飲み方や食べ方を教えてくれました。私たちに、マレーシアで、ひとつでも多くのことを経験させてあげたい、楽しんでいてもらいたい、という気持ちがすごく伝わってきて、私はココナツを食べながら号泣してしまいました。



かくして探し当てた「幻のハニー」は天然ものの超高級品。お店で売っていたわけではなく、装飾線香工場のお母さんが、工場の倉庫にひっそりと、大切に保管していたものです。おそらく普段は人に売ったりしていませんが、オキさんが交渉して、5瓶も融通していただきました。私たち団員ひとりひとりに持たせようと、人数分買ってくれたのです。もう感動で胸がいっぱいになりました。

6 日目

帰国日は早朝出発なので、今日が実質最終日。「思い残すことがないように、今日は死ぬほど食べさせるからね～」と前もって宣言されていたものの、本当に胃袋がやぶれるんじゃないかと思うほどいろんなものを食べた一日でした。

まずは朝食から飲茶 100 種類！土日は大行列で入れないという人気店に連れて行ってもらいました。贅沢な朝食です。その後、フェリーに乗って、潮風に吹かれながらペナン島に渡り、繁華街に入っていました。そこですぐさまチェンドル（緑の寒天が入った小豆のかき氷）の行列に並ぶ一行。まさかと思いましたが、早速デザートタイム開始です。寒天や大粒の小豆が入っているので、デザートとは言え、かなりのボリュームです。

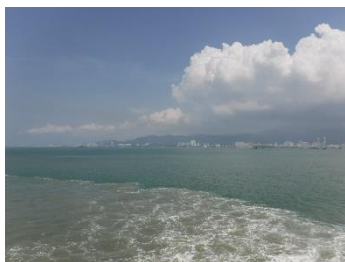


〈チェンドル〉

それを食べ終え、次に **Penang Hill** (ペナンヒル) に向かいました。山の傾斜に沿って作られた斜めのケーブルカーに乗って頂上へ。頂上ではペナンの山や海や街が一望できました。山頂で一時激しいスコールに合いましたが、すぐに止みました。やはり熱帯地域らしい気候の変化です。少し散歩して、山から下りたら、またすぐに食堂へ！そこではラクサと揚げパンと、かき氷を注文。私はまだ1%もおなかに余裕がない状態でしたが、みんなはペロリと食べ終えていました。マレーシア人の胃袋と消化の速さには舌を巻きます。

そのあとはみんなで極楽寺に行って、約 30mもある巨大な観音像を拝みました。この極楽寺は山の頂上にあることに加え、この日はとても暑くて、登るのは本当に大変でしたが、男性陣が、女性陣に手持ち扇風機を買ってくれ、元気復活です。Thanks!!

夕食は、今日のメインディッシュ、肉骨茶(バクテー)です！豚肉を甘辛く煮込んだもので、ご飯と一緒に食べますが、評判通り、とても美味しかったです。120%の満腹状態でも、まだ箸が進みました。バクテーを食べながら、オキさんが「今日が最後だね。楽しかったね。明日帰っちゃうんだね」なんて言いながらウルウルするものだから、胸がいっぱいになって私やホンまでフライング泣きしてしまいました。



さて、夜は気分を一新！私たちには、ちょっとした仕事が残っています。

実は杉田さんと私で、お世話になった皆さんに、お好み焼きを振舞おうという計画を立てていたのです。

オキさんの家で送別会を開いてくれるということで、そこでお好み焼きの準備をしていると、次から次へと人がやってきます。私たちは、オキさんが育てている野菜も使わせていただいて、たくさんお好み焼きを焼きました。たねを混ぜるところや、ひっくり返すところをみんなに見られたり、あちこちから撮影されて緊張しましたが、「おいしい、おいしい」と言ってたくさん食べてくれて、本当にうれしかったです。

この1週間、お世話になりっぱなしだったので、最後に少しでも恩返しというか、みんなが喜んでくれることが出来てよかったです。平日の夜だというのに、私たちのために、こんなにたくさんの方々が駆けつけてくださり、本当に幸せでした。



最後に…

実は、この報告書では書ききれない出来事や、ハプニング、思い出がまだまだ沢山あります。それと、文字には表せない、私の心の中でしか説明がつかないような、感情や心境の変化もたくさんありました。私はこのプログラムを通して自分が成長したと実感しているし、出会ったすべての人たちに成長させてもらったと感じています。

地域の在り方、教育の在り方、家族の在り方、心の在り方…そこには、日本人が学ぶべきものがたくさんありました。この経験をなんとか、自分の今生きる社会に還元したいと思っています。

この貴重な体験をサポートしていただいたホストファミリーはじめ、MAYC ペナンの皆様、葛飾区の皆様、団員の仲間たち、家族、友人、すべての人に感謝しています。本当にありがとうございました。

Thank you for giving dreamlike days to me.

Everything was fantastic...!!

You taught me that smile makes smile.

Full of LOVE.

Kana



仲浦 さくら (なかうらさくら)

【自己紹介】

私は生まれも育ちも葛飾区堀切です。現在 19 歳で都内の大学に通っています。大学ではキャリアデザイン学を専攻しており、人の生き方について幅広く学んでいます。ゼミでは地域おこし、町づくりに取り組んでいます。このホームステイ派遣のプログラムは図書館でたまたま資料を見つけ応募を決めました。特に興味を持ったところはマレーシアが多文化国家だという点です。初めての東南アジア、初めてのマレーシアで不安な面もありましたが、マレーシアについてより深く知れただけでなく、日本、葛飾を再認識した貴重な体験となりました。

【ホストファミリー】

ペナン空港から 15 分くらいのところにあるペナン島内にある Mr.Azizan Bin Md Zain の一家の家にステイしました。Azizan(ファザー) Noorsiah(マザー) Aznor(次男 26 歳) Syahmina (次女 21 歳) が基本的に送り迎えや色々とお世話してくれました。ファザーは建築関係の仕事をしており、働き者で家族から慕われていて一家の大黒柱であり、マザーはとにかく明るく笑わせてもらいました。アズノは 3 度も来日していて日本語が流暢でとても驚きました。次女のミナとは年が近いこともあり夜な夜な話したり、一緒にベッドで寝たり本当の姉妹のように仲良くなりました。また別室では Fatyn(長女 25 歳)と長女の夫 Hazurin 息子の Arash (1 歳半) が住んでいました。



8月3日(木)

Welcome パーティーでは MAYC の方々と自己紹介や名刺交換を行い、マレーシアの伝統料理をふるまっていただきました。ホームステイファミリーと初対面できたときは、やっと会えたという感動と同時に優しい家族で良かったと安心しました。家はシャワールームが 3 つあるほど広くて快適に 1 週間過ごすことができました。

8月4日(金)

朝起きてまず屋台に向かいました。マザーは大学のマネージャーとして働いていて忙しいため、だいたい外食だそう。とても賑わっていました。一歩外に出るとコンビニが結構あり、それは日本と変わらないなと思いました。



この後他の団員と合流し公式行事ということでジョージタウン、モスク、ガーデン、ビーチ等案内してくれました。夜ご飯は大型ショッピングモール Queensbay Mall で。アズノおすすめのチキン料理屋に入りました。

8月5日(土)

ファザー、マザー、アズノ、ミナ、私5人で一泊二日クアラルンプール観光旅行へ行きました。朝はゆっくり10時に家を出発。クアラルンプールまでは車で片道5時間ほど。休憩所ではサテとココナッツジュースにトライしました。



バツ洞窟→私がずっと行きたいと話していたところだったので一気にテンションが上がりました。ヒンドゥー教の聖地と言われていて何故かさるがたくさんいました。272段階段を上がると巨大な鍾乳洞があり、カラフルで神秘的で不思議な空間でした。



セントラルマーケット→可愛い雑貨やアクセサリが並んでおり、私は初めて香水を買いました。

スルタン・アブデュル・サマド・ビル→マレーシアがイギリスの植民地だった時からある建物で、現在は最高裁判所として利用されている。後から詳しく調べてみると、ビルの向かいの広場は独立広場ともいわれ、実際にマレーシアの独立が宣言された場所であり、建物は西洋風の時計台とイスラムのモスク風デザインが融合されているとのこと。近くにはマレーシアの歴代国王のパネル、有名図書館、美術館があり、歴史を感じられるスポットでした。



←初代国王（トゥンク・アブドゥル）

マレーシアの紙幣の表紙はすべて初代国王の肖像画です。

KLCC(ペトロナスツインタワー)→夜のライトアップが最高にきれいでした。高くて写真を撮るに一苦勞でした。22時には噴水ショーが見れました。



クアラルンプールの中心部は新宿や渋谷のように若者でにぎわっていました。夜ご飯は家族行きつけの店へ行き、メインはマレーシアで最初で最後の白身魚でした。とっても美味しかったです。

8月6日(日)

KLタワー→421メートルなので東京タワーより高く、スカイツリーより低いタワー。クアラルンプールの街並みを一望できました。朝にもかかわらずツアー団体でにぎわっていました。ここからもきちんとツインタワーが見えました。

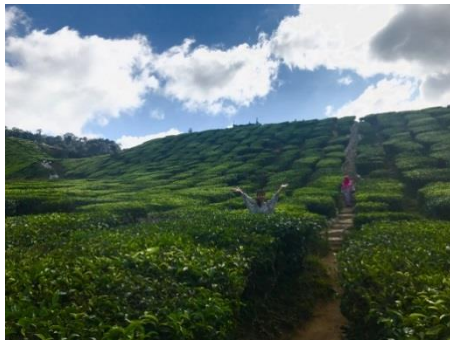


Upsidedown HOUSE→KLタワーに併設されている写真スポットです。そのスポットに入るとすべてがさかさまになっていて写真をひっくり返すと自分たちが天井からぶら下がっているような写真が撮れます。キッチン、リビング、子供用の部屋など様々な部屋があり大人数で行けば盛り上がること間違いなしです。ミナとゲラゲラ笑いながら写真を撮りました。



この後、次の日はファザーは仕事なので寄り道しながら帰路につくことに。途中、おながすいたのでサービスエリアで昼食をとりました。ここではコナツミルクのご飯が竹筒に入って出てきて笹の葉を開いた瞬間いい香りがしました。

キャメロンハイランド→見渡す限り一面紅茶畑でとても開放的でした。カフェが併設されており、キャメロンハイランド産の紅茶とパンケーキでティータイム。私はマレーシアに来てから、飲み物をオーダーするときは決まって紅茶を頼んでいたのですが、ここの紅茶が一番おいしかったです。また、キャメロンハイランドはイチゴの産地でもあるらしく、いたるところにイチゴ農園がありました。そこで飲んだイチゴ100%ジュースが感動するほどおいしくて、イチゴのチョコレートを箱買いしてしまいました。



ハイランドを下っている最中夕日が真っ赤できれいだったので写真を撮っていると、みんなで見ようと車を止めてくれて、10分位ただ夕日を眺めました。結局家についたのは0時過ぎでした。5人とも疲れて、3つあるシャワールームはフル稼働していました。長時間運転してくれたファザーには感謝してもしきれません。クアラルンプールの旅行を通して改めて家族っていいな、日本に帰ったらもっと親を大事にしようと思いました。

8月7日(月)

遅起きしてテレビを見ながらマザーが洗濯物を畳んでいるのを手伝いました。家族の日常の感じがみられました。午後からはマザーの妹の家にお邪魔しました。マザーは兄弟姉妹が多く9人いて、マザーは5番目だそう。マザー、妹、ミナが並ぶとそっくりでした。結婚したばかりらしく、壁紙が紫で統一されていて素敵なおうちでした。フェアウェルパーティーまでの空き時間にはマレーシアの伝統衣装をプレゼントしていただきました。

フェアウェルパーティーでは日本の文化として書道を披露しました。緊張しましたが団員の皆さんの協力もあり、どうにかやりきることができました。最後の写真撮影会はエンドレスで終わりが見えなかったのですが、それも今となってはいい思い出です。



8月8日(火)

PENANG HILL→朝一の便のモノレールでペナンヒルへ。モノレールといっても急こう配でスピードも速くアトラクションのようでした。ペナンではもっとも標高が高い場所で LOVE  LOCK という鍵掛けスポットでもあります。ツアーではガイドさんが植物や昆虫、動物等の説明をしてくれ、展望台 The HAITAT にもものぼりました。さらに、ボディペイントにも挑戦しました。



極楽寺→観音菩薩像や寝仏陀を見ることができました。風神雷神のモデルとなった像があったりなぜかミッキーの石造があったりして面白かったです。ろうそくに灯をともしたり、短冊に願い事を書いてお祈りをするようです。

そのあとは、実際にモスクでお祈りを体験したり、トリックアートミュージアムを楽しみました。最後の晚餐は **Seafood** というお店のカニのから揚げがのったナシゴレンでした。



夜は手紙を渡して感謝の気持ちを伝えようと思ったら、そんなことはできず、写真撮ったりかくれんぼしたり家じゅう滅茶苦茶で死ぬほど笑いました。結局手紙はミナに託しました。最高のファミリーと充実した一週間が過ごせて本当に幸せでした。関わっていただいたすべての方に感謝です。本当にありがとうございました。

9. 次回以降の団員さんへのアドバイス！

- ① 前もってホストファミリーと連絡を取っておくと安心です。お互いに家族写真を送ってもらいファミリーの構成・雰囲気をつかみつつ、ペナンでやりたいこと、行きたい場所、心配事等を連絡しておくにより充実した交流となるはずです。
- ② 携帯電話を持っていく際は、現地の sim カードが使えない場合があるので、日本を発つ前に前もってネット環境を整えておいた方が好ましいです。気になることをその場で調べたり、会話を円滑にするためにもネットが使えると便利です。最低限の連絡のみで良いという方はステイ先の Wifi を借りたり、マレーシアでは Wifi を共有できるシステムがあるようで Wifi をオープンして欲しいとお願いすると、一時的にネットが利用できます。
- ③ マレーシアの方々とはとにかくよく食べます。出されたものは食べないと申し訳ないなという気持ちもあると思いますが、無理し過ぎは禁物です。また、辛い料理が多いので辛いのが苦手でしたら最初にホストファミリーに伝えておくといいと思います。
- ④ 服装に関して。朝晩や室内は肌寒いこともあるので羽織るものを常にかけていると便利です。外出時はたくさん歩くので履きなれた靴が良いです。女性の方は、お手洗いの様式が日本とは異なり床が濡れていることが多いのでガウチョパンツやスカンツよりはスカートが重宝します。トイレットペーパーの芯を取ってつぶして持ち歩くとティッシュ代わりになりますしお手洗いの時役立ちます。
- ⑤ イスラム教徒といえば世界には一部過激な集団もありますが、ペナンの方々には本当に大らかで優しい人ばかりです。先入観を持ち過ぎないことが大切です。
- ⑥ やはり、マレーシアは暑いです。そのため、扇子やうちわがあるとベターです。さらに和柄のものであればお土産にもなります。
- ⑦ どのホームステイ先も大歓迎して色々気にかけてくれ1週間とはいえすごく仲が深まると思うので、別れの時感謝の気持ちを伝えるためレターセットを持っていくのもいいと思います。
- ⑧ あとは楽しむ気持ち！！！！